



安藤眼科医院

ANDOEYECLINIC

<http://www.andoganka.com>
e-mail:info@andoganka.com

安藤眼科医院 松田本院 / 〒258-0003 足柄上郡松田町松田惣領965-1
TEL: 0465-83-4545 FAX: 0465-82-0981
安藤眼科医院 小田原クリニック / 〒250-0862 小田原市成田168
TEL: 0465-38-0344 FAX: 0465-38-2800
安藤眼科医院 南足柄クリニック / 〒250-0105 南足柄市関本569
TEL: 0465-73-1515 FAX: 0465-73-8585

Annual Report 2018

医療法人社団 安藤眼科医院

高度な医療 そして やさしい心配り
患者様の明るい世界、輝く笑顔が見たいから成長し続けます



2018年5月11日 防災訓練(地震体験)にて

- ◇安藤眼科医院
〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領 965-1
Tel.0465-83-4545
- ◇安藤眼科医院小田原クリニック
〒250-0862 神奈川県小田原市成田 168-5
Tel.0465-38-0344
- ◇安藤眼科医院南足柄クリニック
〒250-0105 神奈川県南足柄市関本 569 ヴェルミ2 1F
Tel.0465-73-1515

<http://www.andoganka.com>

info@andoganka.com

目 次

院長挨拶	理事長・院長 安藤 浩	1
FLACS 導入から 1 年経って	副院長 江口 亮	2
FLACS その後	手術室長 木村 智喜	3
FLACS その後 手術室看護師の立場から	看護師 榎本 和美	3
FLACS その後 手術導入後の術前看護業務への影響	看護師 藤田 孝枝	4
FLACS その後 事務上の問題点 小田原クリニック事務責任者	山岸 友希	4
2018 年に行われた手術		5
CAOS21 の会	名誉院長 安藤 展代	6
CAOS21 の会の先生方をお迎えして	松田事務責任者 関 麻子	7
第 28 回 CAOS21 の会を終えて 南足柄クリニック事務責任者	飯山百合子	7
2018 年の思い出		8
学会発表・講演		8
学会・勉強会		9
超広角走査型レーザー検眼鏡 Optos 社製 Daytona 導入	医長 石川 暢子	10
デイトナを導入した経緯		
ロービジョンマネージャー 視能訓練士	笹原 諒平	10
デイトナがやってきた!	臨床検査技師 林 由香里	11
改装・修理・点検		12
入職者 がんばって下さい		12
自動精算機		13
自動精算機導入 時間を得ることで、失われたもの	事務部長 加藤 晃仁	13
自動精算機が導入されて	松田レセプトマネージャー補佐 渡辺 孔美	13
自動精算機が松田にやってきた!	松田秘書 奥村 明奈	14
結婚おめでとう		14
お誕生おめでとう		14
災害対策		15
災害時の冷蔵庫活用	医長 戸野塚敏恵	15
これからの災害対策	検査部長 井上 拓己	15
2018 年の納涼会	臨床検査技師 成瀬 弘紀	16
ひとみすつきり号 (無料送迎車) の動き		17
医師会・眼科医会		17
2018 年皆勤賞 無遅刻・無欠勤・無早退の方々です。拍手!		17
空も見る	安藤 浩	18
スタッフ		18
退職者		18
編集後記		19

院長挨拶

理事長・院長 安藤 浩



2018年アニュアルレポートをご覧になっていただき大変ありがとうございます。地域の皆様、医療機器関係者の方々、医薬品関係の方々、そして近隣の眼科の先生方及び他科の先生方のおかげをもちまして、安藤眼科医院は無事に今年を乗り切ることができました。この場を借りまして、皆様へお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

2018年にも安藤眼科医院ではいろいろな出来事がありました。中でも印象に残るのは、3月に多くの先生方をお迎えしたCAOS21の会と、2018年全般としての緑内障手術件数の大幅な増加です。

2018年3月に当院を見学に訪れてくださった「CAOS21の会（現会長 杉浦毅先生）」とは、眼科機械を幅広く取り扱う企業であるジャメックス様の主導する、手術を中心とした眼科見学会です。今年は当院で導入しているフェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術を見ることを主目的として、全国から21名もの眼科の先生方が、当院を訪れてくださいました。せっかくおいでくださる先生方に、有意義な時間を過ごしていただけるように、外来の案内を事務方が準備し、安藤眼科医院の松田クリニックと小田原クリニックを見学していただきました。そして、手術はフェムトセカンドレーザーと多焦点眼内レンズを使用する白内障手術（FLACS）を中心とする手術をお見せしました。症例検討会、院内運営に関する質問等がとても活発に飛び交い、手前味噌ではありますが、皆様とともに大変有意義な会を作れたと思います。

2018年は、当院の緑内障手術件数が大幅に伸びた年でした。年間およそ307件、2017年当院施行手術件数の1.9倍の観血緑内障手術を施行いたしました。この大幅な増加を一元的に説明できる原因は見当たらず、いくつかの複合的な要因が重なっているようです。

1つ目は、2017年に眼圧日内変動の測定機「アイケアホーム[®]」を導入したことです。緑内障は眼圧下降させることを治療の主としますが、診察時以外の時刻である、早朝や深夜に眼圧が上昇して、緑内障が進行する場合があります。この眼圧の日内変動を把握するために、小型の眼圧測定器を当院から貸し出し、患者様が1週間自己計測することで、隠された眼圧変動を検出することができるのです。見慣れない機器を突然手渡され、検査を受けた人々はとても苦労されたことと思います。それでも、この検査結果を根拠に、日内変動が目標値を超えている方々が2018年から多く見つけられました。そして手術適応となった人々にご説明の上、必要な緑内障手術を行いました。10年後20年後の人々の視機能予後が改善したと推測されます。

2つ目は、やはり2017年、MIGS（低侵襲緑内障手術）に分類される、iStent[®]を導入したことからの変化です。手術の効果は限定的ながら、時間、傷口ともに低侵襲で済む緑内障手術を導入できたために、今まで手術適応境界例であった人々に、手術による効果的な眼圧下降を図れるようになりました。新しい手術であるこの方法は、多くの眼科の先生方に情報を教えていただきながら、当院でも洗練され、大きな効果をあげています。

3つ目は安藤眼科医院の緑内障手術施行が地域の眼科の先生がたに、認知していただけたことだと思います。以前から当院は緑内障手術を手掛けておりますが、ここ数年は特に複数の手術機器の発達が目立ち、安全な手術が行えるようになりました。これを、地域の先生方も感じ取り、安藤眼科医院へ紹介をしてくださるようになったのだらうと、私は思います。デバイスの発達による手術の安定性の上昇が、地域全体の視機能を守る力になっていることをひしひしと感じます。

3つの理由を述べたわけですが、前年比2倍近い緑内障手術増加のいずれの原因も、大型の機械によるものではなく、比較的小型の機械や積み重ねによる進歩が主体を占めています。日々の着実な積み重ねが必要なのだと強く感じる結果でした。地域の人々の視覚を守るために、これからも、小さく、大きく、進歩したいと考える次第です。

診療待ち時間短縮、職員の職務環境の改善、診療のさらなる発展と、当院で取り組むべき点は、ま

だまだ沢山あります。制度の変革、コンピュータやAIの導入、そして診療機器の導入を次々と行い、さらに一步ずつを積み重ねていこうと考えています。また、当院の特徴を生かして、眼科や、社会の人々に貢献出来るよう、努力を続けていきます。これからも、安藤眼科医院、そして安藤浩をご指導いただけますよう、よろしくお願いいたします。



FLACS 導入から 1 年経って

副院長 江口 亮



さて、早いもので当院で FLACS（フェムトレーザーを用いた白内障手術）を開始してから1年以上経過した。インターネットで自ら調べて来院される方が増えたり、近隣の病院や保険会社などから多焦点 IOL[※]を扱う病院へのことで紹介される方が増えたりと、全体的に FLACS 導入前の想定以上のペースで手術数が増えていったように感じる。たった1年ではあるが、多焦点 IOL と FLACS が着実に認知度を高めているのは間違いない。また、我々の手術手技自体もだいぶ向上したと思う。最初は1度でドッキングすることが少ないくらいだったのが、今ではドッキング操作にストレスを感じることはほとんどなくなったし、CCCの裏の皮質吸引のようにいまだに普段の手技との違いを感じる点はあるものの全体的にスムーズに施行できるようになり、ラーニングカーブがある程度落ち着いた状態に達したといえるだろう。

ただ、実際の手術成績、また患者さんの自覚となるとフェムトレーザーを使用したか否かはほとんど（いや、まったく？）関係なく、使用する多焦点 IOL の性質によるものが大きい。当院でこの1年で最も多く使われた多焦点 IOL は Johnson & Johnson 社の TECNIS Symphony である。以前の多焦点 IOL は強いハロー・グレアの発生など問題点が多く、未完成との印象で積極的に勧めづらく感じていたが、EDOF（Extended Depth of Focus：焦点深度拡張）型 IOL の登場で多焦点 IOL の完成度が一段上がったように感じている。対象が眼科医ばかりではないので、少し説明させていただくと、従来の多焦点眼内レンズは、遠：○、中：△、近：○だったものが、EDOF レンズは遠：○、中：○、近：△になったイメージである。あまり変わらないような感じがするかもしれないが、感想を聞くと結構違っている。従来レンズだと「なんだかわからないけれど見づらい」といったクレーム？がそれなりにあったのが、EDOF レンズでは「まあ、確かに近くの細かいものは見づらいけれど（全体的には）良く見える」といった評価をいただくことが多い。特に、「（40歳から50歳くらいの）老眼が少し出てくる年齢くらいの見え方になる」といったあらかじめ期待値を下げるようなイメージを伝えておくと、苦情を言われたことは今のところ皆無である。おそらく、人間の生理的な見え方とその加齢による変化にかなり近い自然な見え方なのだと思う。今後は他社でも同様のコンセプトの IOL が出てくるようなのでその比較が楽しみである。

個人的には今後の多焦点 IOL の未来形は EDOF 型の発展がメインとなると考えている。焦点深度をさらに深めることができれば全距離で良好な視力という白内障手術の理想形により近づけることができるだろう。とはいっても、予想外の伏兵が出てくるのがこの業界の面白いところで全く新しいコンセプトの IOL が出てくることも秘かに楽しみにしている。

昨年に引き続いて FLACS をテーマに記載すべし、とのことだったのだが、FLACS よりも IOL に力点が置かれてしまった。まあ、それだけ CATALYS が問題の少ない優秀な器械だということでご容赦いただきたい。

※ IOL：眼内レンズ

FLACS その後

手術室長 木村 智嘉



昨年のこのスペースに CATALYS 導入にあたり FLACS の準備や心構え等について書いてから、もう 1 年が経ったことをこの原稿を書きながら思い知らされています。

昨年のこの時期の当院での FLACS はまだまだ手探りと言った感がありました。しかし、今年の 3 月 9 日に行われた『CAOS21 の会』による安藤眼科医院 CATALYS 手術見学会に向け、先生方はもちろん職員も手術の順番から患者様の移動ルート、顕微鏡の向き等かなり細かい部分まで相談しながら何度もシュミレーションを重ね安藤眼科医院での FLACS のスタイルを作り上げていきました。その成果のおかげか本番は手術件数も多くタイトなスケジュールだったにも関わらずほぼ時間通り無事終わることが出来ました。これを期に基本のスタイルが出来たことで普段の白内障手術日に数件入る FLACS も件数によるアレンジは加えなくてはなりません。効率よく円滑に行えるようになりました。当時、準備等正直大変で嫌になることも無かった訳ではありませんが、当院の為になるとても有意義なイベントであったと今になって振り返ることが出来ます。

昨年の 9 月 5 日 FLACS 手術開始から今年の 8 月末まで一年間の FLACS 件数は、254 件です。院長が CATALYS 導入にあたり年間何件の FLACS を想定していたのかは分かりませんが僕の個人的な感想としてはかなり多いと思います。件数に関しては先進医療保険等の絡みがあるのでどう変化するかは読めませんが、当院の FLACS が患者様に安心して受けて頂けるようこれからも職員一同精進していけたらと思います。



FLACS その後

手術室看護師の立場から

看護師 榎本 和美



FLACS が導入されてから、約 1 年半が経ちました。

FLACS 導入に当たり、物品の置き場所・ベッドの位置・機材の変更等の変化がありました。白内障手術スペース縮小に伴い、今までとは違った動線となり、自分達の動きも以前とは異なるものとなりました。又、レーザー照射後の見え方の変化や患者様の動線の変化により、CATALYS 手術ベッドから白内障手術ベッドへの移動時、患者様がより安全にスムーズに移動ができるように声掛けし、少しでも不安の軽減ができるよう心掛けています。

FLACS では、CATALYS 手術ベッドでの頭部の固定やセッティング、白内障手術ベッドへの移動があり、通常の白内障手術よりも時間がかかります。その為手術順番の組み方の変更を、先生はじめ手術室長、手術組みスタッフと相談し、少しでも患者様が安全にスムーズに手術が受けられ、待ち時間が少なくなるように模索していき、大分手術がスムーズに進むようになりました。又、手術の進み具合により、その都度手術室長や 2 階看護師と相談し、変更にすぐ対応できるよう、手術室と 2 階看護師の良いチームワークも発揮されています。

1 日に行う手術の中でも、FLACS の患者様は最後の方の手術の順番となる為、緊張する方も多くなります。頭の固定や、レーザー施行等により白内障手術とは違った緊張感もあります。又、手術室では安全面や時間短縮に対する気持ちが優先されがちです。その中で患者様に寄り添い、不安の軽減に努め、安全にスムーズに手術が受けられるよう関わっていけるようにしていきたいと思っています。今後も患者様の明るい世界、輝く笑顔のため、成長し続けたいと思います。

FLACS その後

手術導入後の術前看護業務への影響

看護師 藤田 孝枝

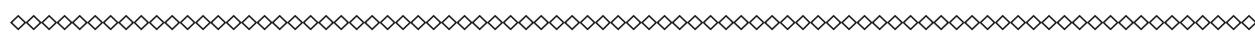


FLACSによる白内障手術は、安全性が高く、眼への負担が少ない手術です。当院では、先進医療保険の給付を受けられる方が、多焦点眼内レンズを挿入する手術の際に多く使用されています。その際、看護師として特に気をつけていることをお話します。

私は患者様がFLACSと多焦点眼内レンズの特徴を十分理解されることがとても重要だと思います。患者様は手術内容を先生から説明されますが、分からないことがあった時に看護師に質問される方が多いです。理解できていないことは、再度先生とお話することが最良ですが、診察時間に限りもあるため、看護師で説明できることは看護師からお話するようにしています。手術までに患者様とお話する時間が多い看護師だからこそ、患者様と密なコミュニケーションをとって、手術への理解・納得感、術後への安心や希望をサポートすることが大事になってきていると思います。

また、手術の予定を決める時は、診察・検査・説明が漏れなく行われるよう、そして検査日や手術日が患者様のご希望に添えることができるように配慮しています。手術当日は、患者様を手術室へお連れする時のタイミングに気をつけます。従来手術とFLACSによる手術では、入室タイミングが異なるため、手術の進行状況をモニターで確認し、無駄な空き時間がないように患者様をご案内し、スムーズな手術の進行を心がけます。

このように、FLACSによる手術では、より細かな気遣いや配慮を必要とします。多くの患者様に安心して手術を受けていただけるように今後も努力していきたいと思っています。



FLACS その後

事務上の問題点

小田原クリニック事務責任者 山岸 友希



当院では早い段階から多焦点眼内レンズを導入してきました。そしてFLACSを始めて早いもので1年が経過しました。

多焦点眼内レンズ手術での事務上の手続きについて少しお話しさせていただきます。

まず、多焦点眼内レンズを希望された患者様の医療保険について、先進医療特約への加入の有無を確認します。通常の保険診療に比べて高額な治療となりますので、事前入金とさせていただきます。手術直後（当日）に領収書をお渡ししています。まれに全額事前入金が必要な方には一部入金を頂き、後日全額入金の確認ができてから領収書をお渡ししています。保険会社様によっては直接入金をしてくださる場合もあり、その場合は手術後に保険会社様宛の請求書をお渡ししています。

保険会社様は患者様が選択されるものなので、こちらでの対応は多種多様となりますので、作業としては時に臨機応変な対応が必要となります。

手術後の感想で、よく見えて幸せだ～なんて言葉を耳にすると私もうれしく思います。患者様の生活のニーズが高まっている現代、よりよい生活が出来るように微力ながら仕事に携わることが出来ることを幸せに感じます。

2017年12月から2018年11月までに行われた手術は2800件でした。

内眼手術

水晶体再建術	2208	
先進医療マルチ (内数)		260 (11.8%)
自由診療マルチ (内数)		19 (0.9%)
緑内障手術	307	
硝子体手術	34	
合計 (a)	2549	

外眼手術

翼状片	60
眼瞼手術	95
霰粒腫	12
PTK	7
その他	13
合計 (b)	187

屈折矯正手術

ICL+P-IOL	7
LASIK	11
SMILE	45
PRK	0
エンハンス	1
合計 (c)	64

硝子体注射

マクジェン	0
ルセンチイス	234
アイリーア	425
アバスチン	0
合計	659

手術合計 (a+b+c)	2800
---------------------	------

ケナコルト後部 テノン嚢内注射	32
ボトックス	16

2017年12月から2018年11月までの水晶体再建術術中トラブルを挙げると次のようになる。

破囊：17眼 (0.77%)

破囊時期：PEA以前 2眼、PEA中 7眼、IA中 5眼、IOL挿入後 3眼
IOLを挿入せず終了したもの：4眼 (うち2眼は毛様小体離断も合併)

水晶体亜脱臼または毛様小体脆弱症例：57眼 (2.58%)

CTRを挿入し、予定通りあるいは若干の変更でIOLを挿入したもの 50眼
全摘出としIOLを挿入せず終了したもの 7眼 (うち2眼は破囊合併)

IOL関連：4眼

ループの断裂 3眼 ループの屈曲 1眼

その他

CATALYSのエラーでPEA+IOLにコンバートしたもの 4眼
CATALYSのカップがかけられなくてPEA+IOLにコンバートしたもの 2眼
i-Stentをトラベクトミー ab interno にコンバートしたもの 5眼
i-Stentを中止したもの 1眼
その他 2眼

CAOS21 の会

名誉院長 安藤 展代



“CAOS21の会”（現会長は杉浦毅先生）の前身は“フェイコツアー”と呼ばれていた。今から30年前、当時白内障手術の主流は計画的囊外摘出術（ECCE）だったが、そこに超音波乳化吸引術（フェイコ）が入ってきた。開業医の日帰り白内障手術の件数が伸びつつある中、術式も変えてゆくという非常に勇気と努力のいる作業が必要とされた。私もその流れに乗ることを選び、悪戦苦闘することになる。そんな時、開業当時からお世話いただいていたジャメックスの中澤さんから“フェイコツアー”にお誘いいただいた。既にその手術をしておられる先生方の施設をお訪ねし、手術のお手本を見せていただくのだった。自分の顕微鏡下の景色に比べて、その先生方の手術の何と美しかったことか、まるで別世界を見るようで、帰るとその映像を思い出しながら自分の手術を美しく仕上げることに全力を注いだものだった。フェイコ技量上がるにつれ、手術時間の短縮、術後ケアの簡素化が可能になり、症例数が増えて行った。そのような術者が増えるにつれ、フェイコツアーも施設見学、患者さんへの対応、術後データの整理にまで興味が膨らみ、質疑応答も盛んになり、集まった者同士の情報交換も盛んになった。

私の手術はこのようにしてフェイコツアーのお陰で成長し、手術は（開業時の）外来の隅では到底できなくなり、のびのび手術のできる小田原クリニックを開業するに至った。1997年小田原クリニックが完成したが、何とその次の年フェイコツアーがおいでになることになった。術者は私ではあまりにも不足なのでビッセン宮島弘子先生にお願いしてあるとのこと、それにしても気の張ることであった。当日ビッセン宮島先生には難症例数例をお願いしてあったが、通常の手術として数例予定しており、それは皆さまがお出でになる前にこっそりやっしまおうと考えて内緒で始めた。終わって手術室を出たら、何とみなさんがもう来ておられ、見ちゃった、見ちゃった…と言われ、ああ、本当にびっくりした。

いつの間にか“フェイコツアー”は“CAOS21の会”と名前を変え、内容はいよいよ充実していった。そんな中、今回 FLACS を導入した施設の一つとして当院を選んでいただいたとのこと、とても光栄なことであった。これはまたとない、当院の院長と副院長を皆さまに紹介できるチャンスをいただいたことになる。私は裏方に徹し、彼らの手術を十分に見ていただくことにした。ところが下見というか先駆けとして高田真智子先生とジャメックスの細川社長が来てくださり、その日は私の手術日だった。一通りの手術が終わり、CAOS21の会の予定の話になった時、細川社長から“高齢術者の手術を見たいと思っている先生がたくさんおられるから”と、私にも当日手術をなさいと言われた。そう言えば自分自身もこの年齢まで手術ができるとは思っていなかったな—と思い、顕微鏡や手術機械の進歩に改めて思いを巡らせた。

当日は懐かしい先生方が次々とおいでくださり、準備に準備を重ねた職員たちも大張り切りでお迎えした。外来のご案内は石川先生にお願いし、手術スタッフは早くから小田原クリニックに集まった。手術は FLACS 8 例、フェイコ 3 例（内 1 例は i-Stent）、SMILE 1 例で、それを術者 3 人で微妙に組み合わせ、予定時刻に終わらせるようにする。いつもの手術よりも余計複雑なやりくりを職員は一致団結して乗り切ってくれた。おいでいただいた先生方のご案内はジャメックスの方々がとても巧みな組み合わせを作ってくださいあってスムーズに動いていた。患者さんにも気を使ったが、どなたもよくご理解くださり、協力していただいたのもありがたかった。

すべてが予定通りに終わった。術者はもちろんだが、職員たちが非常にスキルアップしたことが、大変印象に残った。CAOS21の会は私を育ててくださったが、今また更に若い術者、そして職員も育ててくださっている。

本当にありがとうございました。この会のますますの発展を願っております。

CAOS21の会の先生方をお迎えして

松田事務責任者 関 麻子



昨年12月の全体ミーティングで、『CAOS21の会』の施設見学に当院が選ばれたと発表があり、そこから松田本院、小田原クリニック、南足柄クリニック全職員による事前準備が始まりました。

見学にいらっしゃる眼科の先生は総勢21名。私が事務責任者を務める松田本院は、2年前に移転して外部の先生方をお迎えする初の大きな機会となる為、万全の準備をしなければと気合が入りました。まずは事務部長が分刻みで作成したスケジュールで全体の流れを把握。先生方には2手に分かれて見学して頂くこととし、さっそくシュミレーションを開始しました。

松田本院の見学は、初日の午前11時45分までの45分間。限られた時間の中で館内をくまなく案内するため、案内役とゲストの先生役に職員を分担してシュミレーションを行いました。2階から1階へ移動する際、階段の天井が低いので頭上注意のアナウンスが必要であったり、医局の見学では冷たい木の床にはスリッパが必要であることがわかったりと、見学される先生方の目線で何度も見直しを行いました。院内の掃除も徹底。床の小さな汚れは『激落ちくん』で磨き、受付周りではPCの汚れを落とし、普段出来ない細かい部分の掃除を行う良い機会となりました。

数回のリハーサルを経て迎えた3月9日当日。外来は普段より予約数を少なくし、先生方が到着されるまでに診察を終了。事務部長による開始の挨拶を皮切りに施設見学開始。1階と2階の2手に分かれて見学して頂く中、診察室案内担当の石川先生に質問が集中。3ヶ所の診療所を繋ぐ電子カルテの運用に関する質問が多く聞かれました。各部署の案内係が検査方法や患者様への対応方法等を御説明していると、どの先生も熱心に聞いて下さり、スマートフォンやデジカメで撮影されたりと、診療に対する先生方の熱意がひしひしと伝わってきました。御来院頂いたのは有名な先生ばかりでしたが、『眼科』という共通項目で私たちスタッフに気軽に話して下さいました。とても感激致しました。

スケジュール通り施設見学も終わり、大きな混乱もなく昼食会場へ先生方をお見送りする事ができ、松田事務責任者として本当にホッと致しました。最後になりましたが、日本全国から御来院頂きました先生方、ジャメックス社を始めとする協賛会社の皆様、各部門の職員へ心よりお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。



第28回 CAOS21の会を終えて

南足柄事務責任者 飯山 百合子



毎年行われる CAOS21の会は、平成2年に始まり今回で28回目を迎えました。主導されます(株)ジャメックスさんによると、CAOS21の会は、眼科手術に非常に関心のある眼科医の集まりで、眼科医療の最新の興味ある話題を求めて直接施設を訪問し、ライブ手術見学、情報交換を行い、眼科医療そして眼科医の将来を考える会とのこと。今年のテーマはFLACS(フェムトセカンドレーザーアシスト水晶体再建術)で、FLACSは白内障手術をフェムトセカンドレーザーを使って行う、目に優しい優れた手術です。当院ではこの器械をいち早く取り入れて手術を行っており、今回の訪問先に当院が選ばれたことはとても光栄なこととお伺いしました。平成9年の第8回 CAOS21の会でも安藤眼科医院小田原クリニックにご訪問頂いており、2度の訪問先に選ばれるのはとても名誉なことであり、そんな職場で働けていることに誇りを感じました。

今回の訪問先は小田原クリニックだけでなく、松田本院にもお越し頂けるということで、松田本院勤務の私は当日の案内係として先生方をお迎えすることとなりました。平成28年に現在の場所に移転し、

新しい建物はもちろん、斬新な待合室、総合病院さながらの受付周りの様子や電子カルテ、診察室での対応、多種多様な検査器械など、見学して頂きたいところは沢山あります。しかしながらスケジュールの関係で45分程しかご案内するお時間がなく、事務部長作成のタイムスケジュールを元に当日のご案内を想定し、外来の合間を縫ってスタッフ全員で何度もシュミレーションを行いました。

平成30年3月9日、その日はやってきました。

爆弾低気圧の影響により前の晩から大荒れの天気だったため、遠方から来てくださる先生方がご来院できるのかとても心配しましたが、予定の時間よりも早く続々と先生方がお越しになりました。総勢21名の先生方。いつも名誉院長からお噂を聞いていた先生や、お顔だけは拝見したことのある先生に間近でお会いできる嬉しさを隠しきれず、私はつつい笑みがこぼれてしまいました。先生方からも気さくにお声を掛けて頂き、逆に緊張の糸が解けました。こちらの説明に熱心に耳を傾けて頂き、電子カルテを覗き込む先生方に囲まれ、なかなか次の場所へ進めずも、時間ギリギリでしたがすべてご案内することができました。先生方の満足そうな笑顔と楽しそうに移動されるお姿を見て、とてもホッとしました。

後日、御来院頂いた先生方からスタッフの丁寧な対応や技術の高さなど、沢山のお褒めの言葉を頂戴致しました。当院は予約制でありながら、当日の予約外の患者様にも丁寧に対応しており、ある先生から『そこまでやってるなんて凄い。いい対応しているね。尊敬するよ。』とお褒め頂いたことを思い出し、普段から心がけているスタッフの対応を改めて誇れる1日となりました。これからもそんなお言葉を励みに、患者様への心配りを忘れずに頑張っていきたいと思えます。



2018年の思い出

- | | |
|--------------|---|
| 3月9日 | CAOS21の会の先生方ご来院 |
| 3月20日, 4月26日 | 南足柄クリニック消防訓練 |
| 5月11日 | 春の防災訓練 |
| 6月4日 | 愛 to eye 第7号発行 |
| 7月6日 | (有)メイヨー ERG レチバル搬入 松田本院設置
(株)電算システム 自動精算機搬入 松田本院設置 |
| 8月・9月 | 職員健康診断 |
| 8月6日 | Optosデイトナ搬入 小田原クリニック設置 |
| 9月21日 | 納涼会 |
| 9月26日 | (株)シャンティ Tapia搬入 |
| 10月22日 | 愛 to eye 第8号発行 |
| 10月26日 | 秋の防災訓練 |
| 12月15日 | 忘年会『湯本富士屋ホテル』 |



学会発表・講演

- | | |
|-------|--|
| 6月29日 | JSCRS ランチョンセミナー
『小田原における多焦点眼内レンズの意義』 安藤 浩 |
|-------|--|

学会・勉強会

- 1月26日～28日 日本眼科手術学会学術総会（京都） 安藤浩 安藤展代 江口亮 木村智嘉
- 2月9日 勉強会 高齢者疑似体験 ファイザー(株)島様
- 2月27日 東海大学眼科病診連携世話人会（海老名） 安藤浩
- 3月3日 神奈川クロスオーバーシンポジウム 安藤展代
- 3月9日 CAOS21の会 当院
- 3月10日 第7回神奈川県視能訓練士の会 笹原諒平 成瀬弘紀 山口優希
- 3月10日～11日 CAOS21の会 札幌かとう眼科 江口亮
- 3月16日 講話『結婚の心得・離婚の心得』 山口恵美子様
- 3月17日 神奈川ロービジョンネットワーク研修会 笹原諒平
- 3月27日～29日 『AMO Formative Usability Study: Genesis』
アメリカ ロサンゼルス 江口亮
- 4月19日～22日 日本眼科学会総会（大阪） 安藤浩 安藤展代 江口亮
- 4月19日 安心LASIKネットワーク第17回会議 リーガロイヤルホテル大阪 安藤浩
- 4月27日 勉強会『治療の継続・点眼の継続』 ファイザー(株)島様
- 5月25日～29日 『AMO REGIONAL KOL SUMMIT 2018』 マレーシア ペナン 江口亮
- 5月25日 千寿製薬勉強会 千寿製薬(株) 町田様
- 5月31日 東海大学眼科病診連携会 オークラフロンティアホテル海老名 安藤浩
- 6月15日 検査部勉強会『視野維持の継続』 ファイザー(株)島様
- 6月22日 医師説明会『ラタノプロスト点眼液 SEC』 参天製薬(株)小俣様
検査部勉強会『遠近両用コンタクトレンズの処方手順』
日本アルコン(株)坪井様
- 6月25日 眼科スタッフセミナー2018 東京国際フォーラム 須貝剛 志村舞
- 6月29日～7月1日 JSCRS学術総会（東京） 安藤浩 安藤展代 江口亮 木村智嘉
- 6月30日 眼科手術開業医の会セミナー 新橋第一ホテル東京 安藤浩 安藤展代
- 7月13日 ルセンチス勉強会 アルコンファーマ(株)鈴木様
- 7月14日～16日 フォーサム2018（東京） 石川暢子
- 7月20日 小田原C型肝炎フォーラム ヒルトン小田原 安藤展代
- 8月31日 検査部勉強会『プレミオワンデー』 (株)メニコン西嶋様
- 9月12日～14日 医療ITソリューション展 幕張メッセ 安藤浩 江口亮
- 9月14日 社会保険診療懇話会 南足柄市文化会館 加藤晃仁
- 9月14日～16日 日本緑内障学会（新潟） 安藤浩
- 9月21日～25日 ESCRS（オーストリア ウィーン） 安藤展代
- 10月6日 神奈川県眼科医会健保懇話会 レンブラントホテル厚木
加藤晃仁 山岸友希 本多久美子
- 10月10日 EVO Vision ICL Symposium
国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパス 安藤浩
- 10月11日～14日 日本臨床眼科学会（東京） 安藤浩 江口亮 石川暢子 戸野塚敏恵
- 10月13日 第4回リレックススマイル研究会 リファレンス新有楽町ビル 安藤浩
N-Cats研究会 東京アメリカンクラブ 安藤浩
- 10月22日 医療機器販売・貸与者継続研修 藤本景子
- 11月10日～11日 日本視能矯正学会（横浜） 笹原諒平 山口優希
- 11月28日～30日 視能訓練ロービジョン研修会（国リハ） 山口優希
- 12月7日～9日 日本網膜硝子体学会総会（京都） 安藤浩 江口亮

超広角走査型レーザー検眼鏡 Optos 社製 Daytona 導入

医長 石川 暢子



安藤眼科医院には最先端技術で作られた検査機器が多数揃っている。私達は科学技術の進歩を日々の診療でありがたく実感しているが、3院それぞれの特徴から装備されている器械には違いがある。

松田本院に2012年超広角走査型レーザー検眼鏡 Optos200Txが導入された。当初は眼底の色調が人工的な点や睫毛が画像に写り込む事が気になったが、利点に比べれば些細な問題だったと思う。無散瞳下の眼底検査が可能になった事で飛蚊症を主訴に受診された患者様が自動車を運転して来院されたために散瞳検査を行うことが出来ず、次の検査予定日まで医師・患者様ともに不安を残すという問題を解決できた。ただし性能限界の網膜最周辺領域や硝子体の観察は医師による眼底検査が必要であるため、このような場合でも必ず近日常の散瞳検査を指示している。細部を検討したい時には精度の高い画像を撮影できるので電子カルテ上で拡大して質の良い画像を見ることができる。一回で周辺部までの画像を撮影できる事、患者様が撮影の為に眼を大きく動かさなくても良い事から蛍光眼底検査でも威力を発揮しカラー眼底や自発蛍光を併用しながら病状の詳細な評価が可能になった。これらの利点を理解した後、小田原クリニックにも導入される事が長い間待たれていたが今年ようやく決定した。Optos200Txの発売以降複数のメーカーから超広角走査型レーザー検眼鏡が発売され、Optos社からも後継機種が登場し選択肢が増えた。器械展示場での見学、デモ機の使用を経て患者様に負担が少なく、検査員が扱いやすく、画像が周辺まで確認しやすいという条件に合致する Optos 社製 Daytona が導入された。松田本院と同様に活用して診療の質を更に向上させたい。

デイトナを導入した経緯

ロービジョンマネージャー 視能訓練士 笹原 諒平



最近、小田原クリニックに最新鋭の眼底カメラが導入され、その経緯についてお話しさせていただきます。現在の眼底カメラが故障したという事ではなく、より高度な医療の提供の為に更に新しい機能を持った眼底カメラを追加したという状況です。近年、技術の進歩は目覚ましく、眼底カメラと言っても様々な物があります。今回導入されたのは“デイトナ”という機種ですが、そこに至るまで他社さんの機種をお貸し頂き、比較検討の上当院での診療に最適な機種を決定致しました。

通常、眼底検査を行う場合にはカメラでいう所のしぼり機能を行う瞳孔を広げなくては検査が出来ません。この場合は散瞳剤を点眼して瞳孔を広げます。点眼すると4～5時間程度は手元が見づらくなったり、運転が出来なくなります。当院では眼底検査がある場合、ご自身の運転ではない方法で御来院して頂くように説明しています。ですが、小田原クリニックは駅、バス停が近くにない為、患者様にはご無理をお願いしている状況です。そこで最新鋭の眼底カメラであれば、散瞳剤を使用しない無散瞳下でかなり広い範囲の眼底写真が撮れるということで、今回導入を検討する事となりました。

比較検討させて頂いた機種は① KY CenterVue社の“エイドン”、② Zeiss社の“クララス”、③ オプ图斯社の“デイトナ”です。それぞれの特徴を簡単に説明させていただきます。

エイドンは高画質で最小瞳孔径が2.5mm、1枚の写真の画角は60°でした。ボタンを押すと自動でカメラの最適位置まで動き、ピントも合わせて撮影してくれます。院長は当初、この機種を導入しようと思っていた様で、購入前のデモという事でまずお貸し頂きました。実際患者様を検査してみると、無散瞳下で撮影すると多少映りきらず暗い部分が出てきていました。もし眼底周辺部も撮影するとな

ると、連続で撮影し、瞳孔が小さいままの撮影となってしまう、無散瞳下では完全な写真を撮る事は困難と思われました。更に全てオートで撮影してくれる事は良いのですが、患者様の状態によって撮り方を変えたい場合には対応出来ず、高齢者が多い当院では中々撮影が困難と思われました。おそらく健康診断など健常者が多い場合には有用な機種かと思われませんが、当院での導入は難しいと判断しました。

続いてクララスは高画質で最小瞳孔径が2.5mm、1枚の写真の画角は133°でした。オートフォーカス機能があり、アライメントを合わせてピント調節する手間が必要なく、簡単に撮影が出来ます。この機種の特徴はかなり高画質で高画角にも関わらず、眼底カメラの取り扱いの仕方などが今までとさほど変わりなく、それでいてよく撮影時に写り込む睫毛や瞼が撮影した画像からは消えていて、簡単に言うと今までの眼底カメラをアップグレードしたような感じでした。通常眼底カメラで撮っている時のもどかしさが一気に解消されたような気分でした。患者様の撮影において無散瞳下でもほぼ綺麗に写り、数枚撮れば眼底周辺部まで全て写すことができました。検査をされていてクララスの撮影のし易さは検査員皆が口を揃えて言っており、院長にも検査部としてクララスを導入してもらいたいと伝えましたが、院長は検討の上、この後説明するデイトナを選択しました。

ではデイトナがどういう機種かといいますと最小瞳孔径が2mm、1枚の写真の画角は200°でした。この機種の特徴は何と言っても高画角です。眼底の80%となる範囲の写真が1枚の写真で納まるという点です。院長がこの機種導入を決めた理由もこの無散瞳下での高画角だそうです。実際撮影してみると今までのカメラとは構造が異なるため撮影に多少慣れは必要ですが、何枚も撮影して撮っていた範囲の写真が1枚に収まっていた。これは患者様、そして私たち検査員にとって負担が少なくなります。患者様に撮影後「これで終わったの？」と聞かれることもあり、とても検査が簡単になりました。散瞳しなくても眼底写真が撮れるため、今までなかなか眼底検査出来ていない患者様にも検査が行えるようになりました。

今回、3機種をお貸し頂く機会を頂戴し、各メーカーの皆様には大変感謝しております。今後は検査員としてデイトナの性能に頼るだけではなく、使いこなし、更なる高度な医療を提供できるよう頑張りたいと思います。



デイトナがやってきた！

臨床検査技師 林 由香里



小田原検査部に眼底カメラ「デイトナ」を導入すると聞いて、とても不安が大きかった。暗室は検査器機も多く、定員一杯という様相だったからだ。設置されたデイトナを初めて見て、超コンパクトボディに感動した。デイトナは、無散瞳で広角眼底写真を撮影することができる眼底カメラだ。じっくり観察をする……。コントローラーはない。本体の横にタブレットがちょこんとついているだけ。あご台もない。瞳孔位置の調整はどうやるのだろう？と疑問に思った。メーカー担当者様から一通り説明を受け、外来が始まった。

一人目の患者様は悪戦苦闘だった。右目で穴を覗いてもらったが、すぐに第一の試練。コントローラーやあご台がないので、患者様の頭の角度を変えながら瞳孔をピンポイントで画面中央に合わせなければならぬ。なかなか合わせられず「もう少し右……。もう少し左……。」と声をかけた。患者様も「こうか？」と協力して下さる。よし！位置はOK！すぐさま第二の試練。覗き込むと固視灯があり、顔を近づけると青、緑、赤と光の色が変わる。青は遠すぎる。緑はOK。赤は近すぎる。瞳孔を画面中央に保ちながら顔を近づけてもらうのは難しく、なかなか緑になってくれない。頭の角度を変えながら近づけてもらい、なんとかクリア。固視灯が緑になるとオートでシャッターが切られるので、左手で頭を抑え、右手で瞼を上げることができるのは便利だ。画像を確認すると、やはり瞼

や睫毛が画像に映り込みやすい。瞼を指やテープで挙げるなどの工夫が必要と思われた。

検査員同士での意見交換や、数をこなしたことで、検査にかかる時間も今では短くなりスムーズに行えるようになってきた。

デイトナ導入により、無散瞳で検査が行えるようになったので、検査待ちの患者様が少なくなった。また、広角撮影が1回でできるため患者様の負担も減ったように思う。

今後ますますフレキシブルに進化するであろう眼科器機に負けないよう、私自身も柔軟に対応できるよう努力していきたい。



改装・修理・点検

松田

2月13日	NAVIS 端末入れ替え(診察室2)	8月24日	NAVIS 端末修理(受付)
2月25日	ワックス掛け	8月31日	2階検査室エアコン掃除
3月8日	消防設備点検	9月7日	防火設備点検
3月23日, 28日	エレベーター定期点検	9月7日	NAVIS 端末修理(受付)
3月30日	エルク滅菌器点検	9月10日	NAVISサーバーOSバージョンアップ
6月1日	社内ネットワーク設定変更作業	9月16日~17日	庭木枝払い
6月22日	エレベーター定期点検	9月21日	社内ネットワーク更新作業
6月25日	NAVIS プログラムバージョンアップ	9月26日	エレベーター定期点検
8月16日	NAVIS 修理	9月28日	自動ドア点検
8月19日	ワックス掛け	10月19日	キオスクサイドパネル交換
8月23日	NAVIS 端末入れ替え(診察室3)	10月22日	ビジネスフォン基盤交換

小田原クリニック

1月26日	貯水槽年次点検	8月13日	院長室 PC 入れ替え
2月5日	NAVIS 端末入れ替え(2階)	8月16日	NAVIS 修理
2月18日	ワックス掛け	8月20日	プロパンガス設備点検
2月26日	カタリス定期点検	9月10日	NAVISサーバーOSバージョンアップ
3月10日~11日	非常照明交換工事	9月16日	ワックス掛け
4月16日~17日	Visx 定期点検	10月6日~11月3日	水道漏水工事
6月25日	NAVIS プログラムバージョンアップ	10月11日, 13日	外壁洗浄
7月9日	消防設備点検	10月12日	電気設備法定点検

南足柄クリニック

1月26日	ワックス掛け・外壁洗浄	3月19日, 22日	防犯カメラ撤去設置作業
2月21日	防火設備点検	3月21日	NAVIS サーバー入替作業
3月1日	電話機入替工事	9月10日	NAVISサーバーOSバージョンアップ
3月5日, 7日	サーバー室壁面工事	10月16日	NAVIS ハードディスク交換



入職者 がんばって下さい。

大木 美佳さん(検査)	平成30年3月19日入職
生沼 等さん(ドライバー)	平成30年8月16日入職
鍵和田 利奈さん(事務)	平成30年12月3日入職

自動精算機導入

時間を得ることで、失われたもの

事務部長 加藤 晃仁



『ピーー、ピーー、ピーー』

今日も紙幣取り忘れブザーの音が、待合室に響きます。

平成28年7月に安藤眼科医院松田本院を移転する際、病院の自動精算機で名を馳せる『アルメックス社』と『グローリー社』に憧れ、電子カルテとの連携を踏まえ㈱ニデック大槻様（現東京支店配属）と検討を重ねていました。結果、2社とも電子カルテ NAVISが採用する医事会計ソフト ORCAとの連携実績がなく、予定もないとのことであえなく玉砕したことが昨日のこのように思い出されます。

2年の月日が流れ、当時は奥行き1メートル近い自動精算機が、29.5センチと薄くなり㈱電算システム社から発売されていることを知りました。その精算機を、あの有名な『八王子インフィニティメディカル近藤眼科』様が採用していることを調べ、『これは外さないな。』と理事長に話をしたところ、理事長もまた学会の器械展示で販売会社が異なる同機種をチェックしていたことから、一気に導入への舵が切られたのでした。

平成30年8月1日から運用を開始。当初は診察券のバーコードをかざす場所がわからない御婦人、お札をいれる場所がわからない紳士が続出。御案内のため、自動精算機の前に貼り付けになる日々を過ごしました。近年、めっきり外来にいたことが少なくなった自分が御案内していると『あんた、まだ勤めてたの？』、『懐かしいわねえ、元気だった？』と御婦人方からお声掛け頂き、お元気そうな姿を拝見すると自分もまだまだ頑張らないといけないなと身が引き締まる思いです。

自動精算機を導入することで患者様のお会計に掛かる時間は短縮され、事務スタッフのお会計に携わる時間も短くなりました。一方で患者様とお話する時間は少なくなり、寂しさを覚える患者様からのお声をよく耳にします。機械化の波に抗うことはできませんが、私たちは時間を得ることで、変わりに失われていくものがあることを認識しないとイケません。それはお金の受け渡しの際のちょっとした会話なのかもしれませんが、患者様との繋がりの中で大きなウェイトを占めていたように感じます。得られた時間をどのような形で患者様にお返しできるか、現在進行している手術案内ロボット、在庫管理システム導入と共に考えていきたいと思えます。

今日も待合室には、この声が響き渡ります。

『お札は縦に出ますので、取り忘れには十分ご注意ください。』

自動精算機が導入されて

松田レセプトマネージャー補佐 渡辺 孔美



8月1日、松田本院での自動精算機運用開始の朝を迎えた。

この日を迎えるにあたり、様々なシュミレーションを行い準備を進めてきたが、新たな事を始める不安と緊張の中、釣り銭をセットする。すると早くも1号機にエラーが発生。エラーが解消できないまま、止むを得ず玄関を開ける。受付が始まり、患者様にお配りしている取り扱い説明用チラシを使って自動精算機の説明をすると、“機械”に拒否反応を示す方が多い。しかしこの反応は運用前から予想していたものなので、スタッフが寄り添って案内をしながら機械操作を行って頂き、徐々に慣れて頂くように対応してなんとか初日を終えることができた。

患者様の反応はある程度予想出来たものだったが、日々の精算業務は思っていた以上の難題であっ

た。業務の流れは予め予想していたものの、細かい作業については業務をこなしながら1つ1つ確認し決めていく必要があった。以前は1台しかなかったレジスターが、自動精算機1号機、2号機、POSレジの3台に増えたこともあり、運用開始から暫くの間は操作の仕方を覚えたり、順番を工夫しながら作業をしたため、精算業務が終了するまで以前の数倍の時間が掛かってしまっていた。3週間ほど経った頃には作業手順が構築され、機械操作や役割分担も出来るようになったおかげで大幅に時間短縮することが出来たが、継続して試行錯誤を続け効率を上げて行きたい。

今後、スタッフが寄り添わなくても患者様がお一人でお会計出来ることを目指し、スタッフ間で気が付いた情報を共有し、案内の仕方や表示等の改良を重ね、患者様皆様に認知された時に、初めて自動精算機が最大に活かされる日が来るのではないかと期待している。



自動精算機が松田にやってきた！

松田秘書 奥村 明奈



以前から自動精算機を導入したいという話がありましたが、ついに8月から運用を開始することになりました。自動精算機 ClinicKIOSK2台と POSレジ1台の計3台です。6月末から毎週金曜日、松田の事務スタッフ全員で取り扱い説明を受けました。最初に紹介資料を頂き、一通り説明を受けたのですが、初めて聞くことばかり。『何か質問はありますか？』と言われても、わからないことだらけで質問することもできません。

7月に入り実際に機械が設置されると、思っていたよりも大きく、いかにも高そうな機械で触るのにとっても緊張しました。使い方の説明を受け実際に体験してみましたが、戸惑う事ばかり。何より驚いたのが、お金を出し入れするときの音です。ジャラジャラすごい音がして、まるでゲームセンターのよう。初めの頃は操作する度に驚いていました。みんなで様々なお会計の方法をシュミレーションし、何度もやっていくうちに少しずつ慣れていくことができました。

使い方を練習するのと同時に、運用するにあたってのルール、締め作業の手順などをみんなで話し合いました。誰もが未経験の為、釣銭はどれだけ必要なのか、両替はどうするのか、締めのチェックシートはと、ひとつずつ決めていくのがとても大変でした。毎週金曜日の練習と話し合いを重ね、8月1日から運用を開始しました。トラブルがあると対応に困ることもありますが、機械にも大分慣れ、自分達がお会計をしていた頃に比べると、患者様のお会計が早くスムーズに終わるようになりました。

当初は初めてのことで戸惑いましたが、みんなでアイデアや意見を頻繁に交わしたことで、団結力や絆を深めることができました。締め作業が以前より複雑になったため、自然とみんなで作業するようになり、チームワークをより養うことができました。この機械の導入でお会計作業がスムーズになっただけでなく、沢山のことを得ることができ、とても良い経験ができました。これからも、患者様により快適に院内でお過ごし頂ける様、努めてまいります。



結婚おめでとう。

本多（中村） 久美子さん

平成 30 年 10 月 17 日

災害対策

災害時の冷蔵庫活用

医長 戸野塚 敏恵



今年の猛暑を乗り越えた我が家の13才の冷蔵庫、とうとう悲鳴を上げた。食品をクーラーボックスに入れながら、ちょうど北海道胆振地震から間もない頃だったので考えた。「災害時はこんな感じか…」「これら食材、災害時には無駄になるのかな…」

さて、災害発生時、これまでは3日分の備蓄があれば十分と言われていたが、大災害時（特に南海トラフ巨大地震）では「1週間以上の備蓄」が望まれている。1週間の食料は大変だが、冷蔵庫には食材がたくさん…。ちょっとした工夫で災害時に冷蔵庫・冷凍庫の食材がうまく活用できそう。それは、普段から意図的に食材を買い置きすること。食パンやご飯等は常に冷凍保存しておくで災害時は解凍するだけで食することができる。また、作り置きお惣菜を普段から作っているご家庭ではお惣菜も食料になる。野菜のピクルスなどは長期保存可能なのでおススメらしい、などなど。工夫次第でいろいろ活用できるようだ（詳細は後述のホームページ等参照を）。

せっかく調べてみたので我が家で実践してみた。毎日、5人分の夕食と翌日の弁当の食料を購入している私には、「備蓄」を考えてさらに購入するのは大変！作り置きしている時間なんてないのだが、家族の災害時の事を考えるとそんなことは言っていられない。せっかく冷蔵庫も大きくなったことだし、これから試行錯誤して災害に備えておこうと思う今日この頃である。

ここで要注意。地震の際に肝心の冷蔵庫が転倒しないよう、対策をお忘れなく！

（参考文献 内閣府 防災情報のページ 国崎流「流通備蓄[®]」のススメ）

これからの災害対策

検査部長 井上 拓己



近年、日本列島の各地で大きな地震が起これ、関東圏での直下型地震の発生が危惧されています。小田原においても、過去に起きたマグニチュード6～8の地震は、天正小田原地震、寛永小田原地震、元禄地震、天明小田原地震、嘉永小田原地震、関東大地震と概ね70年間隔で発生しており、最後の関東大震災から既に95年が経っていますので、いつ大きな地震が発生してもおかしくない状況となっています。更に今年（2018年）は、地震のみではなく、西日本で32年ぶりの寒さを記録したのを皮切りに、島根県西部地震（震度5強）、大阪北部地震（震度6弱）、豪雨（平成最悪の水害）、猛暑（歴代最高気温を更新）、台風（平成最強レベル）、北海道胆振東部地震（震度7）と近年稀にみる災害に見舞われました。これらの災害の被害を大きくしている原因は、「地球温暖化」を主として、さまざまな要因があろうかと思われませんが、いづれにしても、今後も更に大きな災害に見舞われる可能性が大きく、それらの災害に対して、今まで本院で行っていた災害対策で対応できるのか、防災対策班を中心に検討を進めているところです。本院では、2011年に起こった東日本大震災を機に災害対策に取り組んでまいりました。具体的には、職員を救護班、情報収集班、避難誘導班に振り分け、更に各職員が何をしたらよいのか細かい担当を取り決め、実際に災害が起こったときに慌てないような対策をとっておりますが、これらの対策は、主に地震や火災に対する対策であって、洪水や土砂災害、暴風雨については、さほど重要視されておられません。なぜなら、最初に防災計画を製作した当時は、県が発表している「洪水ハザードマップ」においても本院は浸水50センチ以下（現在では浸水予想が50cm以上3m以下に変更されている）で、危険地域には指定されておらず、また、今年、各地域で起こったような暴風雨も想定していませんで

した。しかし、前述のように、今年の災害は異常で、日本列島を縦断し、関東地域を直撃するような台風が発生や、暴雨風雨による土砂災害、河川の氾濫など、想像を絶する、まさに想定外の事が起きており、松田・小田原地区でも同じような被害が起こらないとも限らない状況となっております。それらの自然の猛威に対して、何ができるのでしょうか。まず考えられることは、暴風雨による被害を最小限に留めることです。具体的には日頃から、院内敷地内にある看板や街灯など、壊れたり腐食したりしていないか、ベランダや屋上に風に飛びそうな物はないか確認し、動きそうな物は、予めしっかり固定しておく等の対策が必要でしょう。また、もし、窓ガラス等が割れてしまった場合に備えて、ベニヤ板やビニールシート、ロープなど雨風を防ぐ物を用意しておくとも良いかもしれません。浸水に対しては、サーバーなど水に濡れたら困る物は出来るだけ2階以上に置きたいところです。そして一番困るのが、今年9月に起きた北海道の地震のように道が遮断され、想定より長く院内に留まらなければならなくなったり、物流が止まってしまうことです。今までは支援物資が届くまで（想定3日分）の水や食料を備えていましたが、もし支援物資が届かなければ、より多くの非常用の物品の蓄えが必要となる可能性もあります。このように今までの地震や火災対策だけではなく、これからは暴風雨や洪水による浸水、土砂崩れ等が起こってしまった場合等も考える必要があります。それらを踏まえた上で防災対策を練っていく必要があります。しかしながら、最良と思える方法が実現できるとは限りません。例えばサーバーを2階に移すとすると、ただ移すだけではなく、冷房完備の部屋が必要になり、それに伴う費用も手間も必要となります。また、非常食を準備するにしても、当院の職員は現在約70名おり、また、松田本院においては多い時には80名近くの患者様が院内におられ、これらの人達が当院に閉じ込められた時に、いったいどこまでの準備が必要なのか、またそれらの物品を置くスペースの問題もあります。これらの問題は当院として、どこまで対応が可能なのかを良く検討していく必要があります。完璧な災害対策とはいかないまでも、少しでも被害が少なくすむように各地に起こった今までの災害を教訓に、いろいろな情報を収集し続け、これからも、より良い災害対策を作っていきたいと思えます。

2018年の納涼会

臨床検査技師 成瀬 弘紀



1年前から日程が決まっていた納涼会。今年は硝子体の手術が入ったため急遽日程を変更したりと慌ただしかったです。そのため全員参加とはいかず、人数も半分くらいでしたが、とても盛り上がりました。

今回、納涼会の場所を選んだお店は「相州 鳥ぎん本店」です。小田原駅東口から徒歩5分、焼き鳥と釜飯が有名なお店です。お店の中は1階と2階があり、今回は2階を貸し切って行いました。

鳥ぎんのコース料理は、他の居酒屋などで提供されるコース料理とは違い、1人1人それぞれに提供されます。そのため、料理を取り分ける必要がなく“飲み”に集中でき、遅れて来る人も料理が残っていないのでは？とドキドキする事もないため安心です。

料理の品数もちょうどいい感じです。コースの最後には名物の五目釜飯が出てくるのですが、さすがにお腹いっぱいでした。みんな持ち帰り用の容器を貰い、お土産とし家で美味しく頂きました。

忘年会とは異なり、みんなで気楽に楽しめる納涼会は、普段なかなか話せない事をゆっくりと話せ、みんなの違う一面を知るいい機会でした。時間もあっという間で、本当に楽しく無事に終わる事が出来ました。日程変更にも関わらず参加して頂いた皆様、本当にありがとうございました。

最後になりますが、この2年間忘年会委員を務めさせて頂きました。不慣れな事もあり、ご迷惑もおかけしましたが、職員の皆様のご協力のお陰で、ここまでやってくる事が出来ました。自分にとってとてもいい経験になり、本当にありがとうございました。この経験を生かし、これからの日々の業務を更に頑張っていきたいと思えます。

ひとみすつきり号 (無料送迎車) の動き

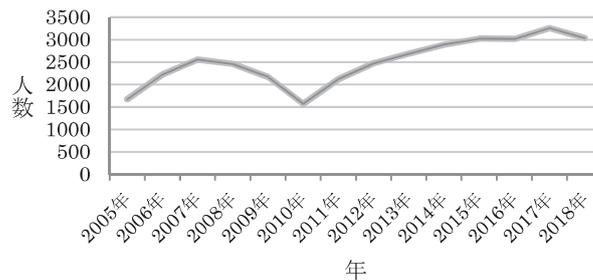
2018年の利用者は延べ3036人、月平均253人でした（予定含む）。
現在すつきり号は4台、ドライバー5名で運行しています。

主な送迎場所

- ・安藤眼科医院（松田）～安藤眼科医院小田原クリニック
- ・足柄上郡松田町寄地区、山北町中川地区・清水地区に定期便を運行
- ・足柄上郡全域と小田原市については手術日と翌日診察について door to door の運行



送迎患者数年次推移



どんな時も安心してご利用頂けるよう、安全運転を心掛けています。



医師会・眼科医会

- | | | | |
|---------|-------------|-----------|---|
| 1月12日 | 足柄上医師会新年会 | 松田町『千代田屋』 | 江口 亮 |
| 3月2日 | 足柄上医師会懇親会 | 小田原『だるま』 | 安藤 浩 |
| 4月～6月 | 学校検診： | 安藤 浩 | 県立大井高校、立花学園高等学、松田幼稚園、
松田小学校、松田中学校、寄幼稚園、寄小学校、寄中学校 |
| | | 江口 亮 | 県立吉田島総合高校、県立山北高校、岡本小学校、
岡本中学校、中村小学校、井ノ口小学校、中井中学校 |
| | | 石川 暢子 | 大井幼稚園、大井第二幼稚園、大井小学校、上大井小学校、
湘光中学校、相和幼稚園、相和小学校 |
| | | 戸野塚敏恵 | 北足柄小学校、南足柄小学校、岩原小学校 |
| 7月12日 | 足柄上医師会総会納涼会 | 安藤 展代 | |
| | 足柄上病院懇談会 | 松田『千代田屋』 | 安藤 浩 江口 亮 |
| 10月～11月 | 就学時前健診： | 安藤 浩 | 松田町 |
| | | 江口 亮 | 南足柄市 |
| | | 石川 暢子 | 大井町 |
| | | 戸野塚敏恵 | 南足柄市 |
| 11月3日 | 小田原休日急患診療所 | 安藤 浩 | |



2018年 皆勤賞 無遅刻・無欠勤・無早退の方々です。拍手！

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 金田 浩子 | 甲斐 智美 | 鈴木 智子 | 山岸 友希 | 高橋 京子 | 木村 智嘉 |
| 宮下千加子 | 山川久美子 | 奥村 明奈 | 新村 瑞希 | 関野 芙美 | 鈴木亜也子 |
| 笹原 諒平 | 露木 ちか | | | | |

MONARCH7。本年私が購入して最もうれしい思いをしたものの一つだ。高性能光学機械だが眼科とは全然関係なく、完全プライベートで趣味の世界の買い物だ。ニコンが誇る屋外用双眼鏡である。

子供のころには、父の双眼鏡を勝手に使っていたのだが、それ以来、高性能双眼鏡を手にする機会がなかった。ところが、36度を超える真夏日に、冷房に当たりたくて店に入ったら、ふと手にした双眼鏡の高性能にびっくりしてほぼ衝動買いをしてしまったのだ。重心の良さからくる軽い取り回し、グリップの良さ、ピント調節ノブの絶妙な位置関係、なによりも明るく鮮やかな色調の視界がすばらしい。窒素充填で完全防水、重さはわずか650 gである。

安藤眼科医院がある足柄平野は、地理的にも文化的にも境界としての特異点があり、見どころがたくさんある。足柄峠-箱根山の山塊は複雑な形状をしていて、東西どちらから風が吹いても、強力な上昇気流ができる。山々と、特殊な風のせいで、森も深いし鳥も多い。春先にツバメが現れ、海を越えてヒヨドリが来る。秋、9月後半には、渡っていく鷹も見られた。残念ながら足柄峠に立ち上る鷹柱は、寝坊したせいで見られなかったが、それでも、箱根を超えていくハチクマという大型の鷹の雄姿は見事だった。特に何もしなくても、この双眼鏡ならば、ぼーっと休んでいる鳩、小田原天守閣からの市街地、ぎりぎり輪が見えた気がする土星と、結構いろいろなものが見える。

顕微鏡ばかりではなく、遠くのものに目を凝らすのもとても素敵だという、ごく当たり前のことを、改めて新鮮に発見できた双眼鏡だった。



スタッフ

常 勤 医：	安藤 浩	安藤 展代	江口 亮	石川 暢子	戸野塚敏恵
看 護 師：	井上 拓己	金田 浩子	甲斐 智美	榎本 和美	松山さやか
	藤田 孝枝	香川奈美子	久野 妙子	磯田 瞳	加藤 知佳
	望月 美幸	露木 ちか	工藤奈津美		
臨床検査技師：	木村 智嘉	志村 舞	須貝 剛	十文字 恵	新村 瑞希
	林 由香里	成瀬 弘紀			
視能訓練士：	笹原 諒平	山口 優希			
検査看護補助：	鈴木 智子	高橋 京子	藤本 景子	山川久美子	岡田真由子
	坪井明日香	鈴木亜也子	大木 美佳		
事 務：	加藤 晃仁	小寺 弥生	加藤 明子	山岸 友希	飯山百合子
	近藤 里奈	波多野麻里亜	山口いづみ	宮下千加子	小見山絵理子
	鈴木 雅美	矢口 弥生	田代 明子	関 麻子	奥村 明奈
	本多久美子	渡辺 孔美	町田 裕子	土橋 祥子	後藤芽久未
	関野 芙美	高田 里沙	熊本 靖代	生水 里美	宮澤 菜摘
	星野 友美	小島 絵美	鍵和田利奈(研修中)		
ドライバー：	田辺 勝美	中込 信治	米山 俊彦	和田 弘	生沼 等

退職された方 お疲れ様でした。

小野 美和子さん(事務) 上原 章さん(ドライバー) 野地 真弓さん(事務)



編集後記

Annual Report 2018はいかがでしたか。本年も先生方や多くのスタッフの皆様コラムを書いて頂き、非常に読み応えのある1冊に出来上がりました。

さて、今年のAnnual Reportこぼれ話かというと…、今年の思い出にありました、Tapia(タピア)という機械です。まだ本格稼働していないので少しだけ…Tapiaとは高さ30cm位の卵型ロボットで当院では患者様への手術説明を目的として導入されました。顔は液晶モニターになっていて説明時には画像や動画が映し出され、ロボットらしい可愛い話し方で手術の説明をしてくれます。既に導入されている眼科様があるそうで、各種手術に対応できるということなので当院でも活躍する事必至です！

電子カルテ導入から数年、自動会計機の設置やロボットの導入で安藤眼科医院もIoT時代の波に乗りつつあります。私たちスタッフもこの波にのまれぬよう日々勉強です。とはいえ、毎日の業務の中、猫の手ならぬロボットの手も借りたい！なんてこともしばしば…

近い将来、スタッフの一員として、表紙の集合写真に人型ロボットが仲間入りする日が来たりして…毎年のAnnual Reportと共に楽しみに待っていてくださいね！

2018年12月15日
編集長 志村 舞